

# 県内企業 受注増に期待

## トヨタ東日本 東北へ生産集約

## 地域経済への波及効果も

トヨタ自動車子会社のトヨタ自動車東日本(宮城県大衡村)が、2020年12月未だに東富士工場(静岡県裾野市)を閉鎖し、大衡村の宮城大衡工場と岩手県金ケ崎町の岩手工場に生産機能を集約することになった。トヨタと取引のある県内の関連企業からは、受注増や地域経済への波及効果を期待する声が上がっている。

(木村織音)

トヨタが国内で乗用車の工場を再編するのは11年以來。トヨタ東日本は主に小型車を生産しており、競争の激化に対応し、生産効率を高める狙いがある。東富士工場の生産は年間5万台規模とみられ、小型車「ポルテ」「スペイド」や「ジャパンタクシー」などを製造。生産の大半が東北2工場に移管される見通しで、従業員約1100人も今秋以降、東北に異動する予定。

トヨタ東日本総務部の担当者によると、生産移管で近隣地域のメーカーから(部品を)調達することが増える可能性はある。近年、トヨタグループに直接部品を供給する「1次サプライヤー」が東北に関連会

社を設立する動きが目立っており、地元企業との取引拡大が進むことを期待している」と話す。県内に事業所を置く自動車関連企業は受注の広がりを見込める。自動車用シートカバーを製造販売するヌイテック

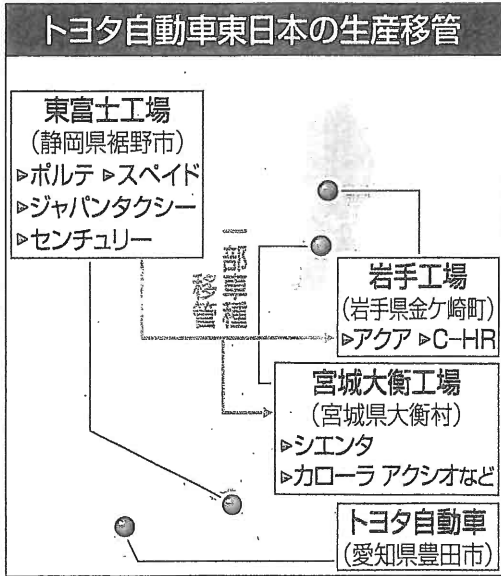
は「さまままな波及効果が期待される。喜ばしい」と歓迎。一方、「現在でも人手不足している。増産に対応するには人材確保とスキル向上が不可欠」と課題を挙げている。県内では、トヨタグループ

コーポレーション(東京)は、横手市大森町と同市平鹿町の2カ所に工場があり、月産計約2万7800台分のシートカバーをトヨタ東日本などに納入。西工場の受注は増加傾向という。

ヌイテック社の担当者はトヨタ東日本の工場移管について「さまままな波及効果が期待される。喜ばしい」と歓迎。一方、「現在でも人手不足している。増産に対応するには人材確保とスキル向上が不可欠」と課題を挙げている。県内では、トヨタグループ

大橋鉄工本社によると、秋田ではエンジンやボディー部品の製造にも乗り出し、20年1月からトヨタ東日本に納入する計画も進行中という。来年5月には新たな設備を導入する見込みだ。

大橋鉄工は現在、トヨタ東日本の東富士工場で生産している車種の部品の一部を製造している。大橋鉄工の担当者は今後のトヨタ東日本への部品納入について「輸送費を考えると近くの工場から納めた方がいい」と語り、秋田からの部品納入に切り替える可能性を示唆した。



## 県、新規参入を後押し

県輸送機産業振興室は、トヨタ自動車東日本が静岡県の工場を閉鎖し、宮城、岩手両県の工場に生産機能を集約させることについて「既存のサプライヤーにとつて、ビジネスチャンスの拡大が期待される。本県の製造技術を生かし、新規参入も増えるよう、県としても後押ししていきたい」と

県内の自動車産業の製造品出荷額は、13年工業統計調査時点で554億円。県は自動車産業を成長分野に位置付けており、あきた未来総合戦略(15~19年度)では、19年度に1022億円まで伸ばす目標を掲げる。

あきた 経済